

防災！一瞬の判断と備え



近年、経験したことのない自然災害が全国各地で発生しています。阪神・淡路大震災の体験をもとに、東京大学と連携し最前線の防災研究をされている講師をお招きし、最新の防災情報や日頃から備えておくべきことなどを学ぶとともに、演習を通じて災害発生後の人権に配慮した避難所運営について考えました。(受講者 43名)

〈研修内容〉

- 講義「一瞬の判断と備え～あなたは突発的な自然災害に対処できますか～」
- 演習「避難所運営ゲームHUGを通じて人権に配慮した避難所運営を考える」



○講師

東京大学生産技術研究所リサーチフェロー
東京大学災害対策トレーニングセンター講師
元兵庫県広域防災センター防災教育専門員

田中 健一 氏



受講者アンケートから

- 災害を知り災害をイメージすることにより、災害発生時に適切な行動をとる力をつけられるように日頃から考えることが大切であることが分かりました。(公民館職員)
- “自分は大丈夫”とついつい思ってしまいがちですが、これからは常に危機意識をもって過ごせるようにしていきたいと感じました。家族でも話し合う機会を持ちたいと思います。(幼保こども園)
- 私が住んでいる地域では大きな災害が起こらないと感じていたが、忘れてしまっているだけで、繰り返し災害が起きているのだと感じた。一人一人が意識して防災に向き合うことで想定外のことから想定内を増やしていけるのではないかと感じた。(幼保こども園)
- 防災教育には、イメージ力が必要だということが、講義の話や映像から体感することができ、とても有難かったです。この先に何が起こるかということを見通すときの指針となることはやはり、経験が大きいかと思います。経験のない場合には、他の地域から学ぶことの大切さ、ただその時には、正しく恐れ、正しく備えることを忘れてはいけないということも学ばせていただきました。(学校教職員)
- HUGの体験は徐々に緊迫感が増してリアルでした。ただ役割分担は大事で、瞬時に判断・決断することが強く求められると思いました。こういうワークショップはより多くの人に体験してほしいものです。(諸団体)
- HUGでは息づく間もなくいろいろな人、情報が飛び込んできて判断に迷ってられないと感じました。だからこそ事前の準備が大切だと思いました。(一般)